ＡＪＢＲＣ文庫

電波受信中。

原　和規

ＡＪＢＲＣ文庫

電波受信中。

原　和規

この電子書籍はコミックマーケット 88 で
頒布したものを電子書籍用に再構成したものです。

まえがき

みなさまこんにちは。この度は、ＡＪＢＲＣ文庫最新刊『電波受信中。』をお手に取っていただきありがとうございます。

この本はＡＪＢＲＣとしては『斜陽村物語②ノベライズ版』以来の久しぶりの書籍になります。

『電波受信中。』というと『電波女と・・・』を思い浮かべる方もいらっしゃるかと思いますが、あれとはまったく別物の作品です。

今回の主人公は生まれつき感受性といいますか、『感脳波』というものを人よりも強く感じることができるという能力を持った女の子が主人公です。

東京を離れ、長野の大学に通うために一人暮らしを始めた女の子。そこでであった親友と付き合うようになってから不思議な出来事が展開していきます。

それでは本編をお楽しみ下さい。

一、感脳波？

『感脳波（かんのうは）』という言葉を知っていますか？

感じる、脳の波と書いて感脳波。

人間には多かれ少なかれ人の心を読み取る、感じとるという能力が備わっていると思います。

例えば、赤ちゃんがその子にとって悪い人かいい人か、やさしい人か恐い人かを見分ける力があるのはあまりにも有名な話だと思います。

その他、人の気持ちに立って物事を考えられる。相手がどんな気持ちなのか、どういうことをしたいと思っているのかそんなことを感じ取れるという能力は誰にでも備わっているもの。

いや、ひょっとしたら小学校の時の国語の時間がその能力の訓練だったのかもしれません。

で、私が最初に言った『感脳波』というのはそういった能力をさらに進めた特殊能力の一種を指した言葉です。

一般的な人の場合は相手がどう思っているのかが何となくわかるだけだとすれば『感脳波』を感じ取る能力を持っている人は相手の思いが自分に飛び込んで来ると言った感じになります。

この感じ取れる能力を職業としている方達で有名なのは恐山などのイタコのみなさんではないでしょうか。

あの方達は生きている人間だけでなく死者、あの世に言った人間の言葉も語ることが出きるのですから。

さて、前置きが長くなりました。

私は現在、長野県の大学に通う一年生、名前は静山京子（しずやまきょうこ）と言います。

家は・・・イタコの家系と言うわけではなく、ごく普通の公務員のお父さんと専業主婦の

お母さん、それと小学五年生の弟が一人といったごくごくありふれた家庭に育って来ました。
ただ、子どものころから何というか人よりも感受性が強いというか・・・人が思っていることわかる・・・と言うより頭に響いてくることがよくありました。
そのことを人に話しても「そんなことないでしょ。」と言われいつしかそのことを人に話すこともなくなりました。

唯一、親友の一之瀬杏子（いちのせあんず）を除き・・・

杏子とは大学に入ってから知り合いました。
親友になったきっかけは名前の読みを変えると私と同じ『きょうこ』になるというただそれだけの理由で話し掛け、話を色々とする内に杏子も私と同じ不思議な力を持っているということがわかり親しくなりました。
今では親や弟よりも何でも相談し合える仲になっています。
そんな私と杏子ですが子どもの時はとにかく会う人あう人色々な思いが頭に入って来る

という状態でした。ですが中学生あたりから徐々に自分でコントロールすることが出きるようになり今では日常生活を送る上では不自由に感じることはなくなりました。

でも、感情が高ぶった時、相手の事が気になった時はどんどん入って来そうになることもあるのですが・・・

そんな時はなるべく別の事を考えて自分の注意を逸らすようにして対処しています。

ちなみに、私は元々東京の出身です。高校までは東京の学校でしたしお父さんたちは東京にいます。

長野の大学は空気の綺麗なのんびりしたところで色々な事を学びたいと思って受験しました。

ということで私だけこの春から長野で一人暮らしを始めました。

もちろん私自身、バイトをして生活費を稼いでいますがそこは学生ということもあり学費や生活費の大部分はお父さんたちに出してもらっています。

なるべくお父さんたちに負担をかけたくないと思って長野で家を探した時はなるべく安

いところを探しました。
不動産屋さんと色々なところを見て回りましたが決め手となったのはその家の思いでした。
家の思い出ではなく、その家に宿った思いで選んだんです。
さっきも言いましたが私には『感脳波』を感じ取る力があります。家に入った瞬間に前に住んでいた人たちのあったかい思いが伝わってきてなんだかこの家なら守られている、守ってくれると言う感じがしました。
私はそう言う理由で今の家に決めました。
ついでに言うと、親友の杏子も一人暮らしをしています。
杏子は長野県南部に暮らしていたそうなんですが、さすがに大学まで片道七時間もかかるのは正直つらいということで一人暮らしにしたようです。
杏子も私と一緒で家の決め手は前の人のあったかい思いだったそうです。

ちなみにこう言った家に宿る思いなどの事を専門的には残留思念（ざんりゅうしねん）と言うんだそうです。私は知らなかったんですが杏子が教えてくれました。

杏子は私とは違ってこの能力に関する知識がかなりある様で、いつも色々な事を教えてくれてその度に助けられています。

ここまでお読みいただきありがとうございました。
もし気に入っていただけましたら続きは有料版を
お読みください。

作者